【団体】

福岡市立横手小学校PTA

令和7年2月6日(木)西鉄グランドホテルにて、 令和6年度に各種表彰を受賞されました団体および個人のみなさまをお招きし、祝賀会を開催いたしました。

令和6年度 各種表彰受賞一覧(敬称略)

公益社団法人日本PTA全国協議会会長表彰

【団体】福岡市立三宅小学校PTA

九州ブロックPTA協議会会長表彰

【団体】福岡市立若久特別支援学校PTA

【個人】原 裕一朗·增田 亜希子 【感謝状】光安 巖‧関 冨弘

(4)



福岡市PTA協議会新聞



第147号

福岡市中央区舞鶴 1丁目4番13号 福岡市舞鶴庁舎6階



福岡市PTA協議会

印刷㈱西日本新聞プロダクツ







目次

援

令和6年度 福岡市PTA協議会 親子ふれあい事業 令和6年度 特別支援教育啓発研修会

にながり

る深ま

令和6年度 PTA活動活性化推進事業 校長先生コラム

令和6年度 三P協主催事業 第4回「学ビバ!!FUKUOKA」2024 福岡市大会

2

令和6年度各種表彰受賞合同祝賀会・ 三行詩コンクールのお知らせ・学校・PTA自慢募集中! 第70回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会大会シンボルマーク・ロゴマーク決定!!

な



会 長 岡村耕二

福岡市PTA 検索

自分ら す

3

生き方

たら動たする ででで こし事しわ んつもずな

て、た酷

と双しだ

感子たな

三行詩コンクールのお知らせ

優良PTA文部科学大臣表彰

きらりと輝く九州人大賞(個人・推薦団体)

福岡市立福岡中央特別支援学校PTA

【九州ブロックPTA協議会会長賞】 髙良 泰弘·福岡市立内野小学校PTA

【福岡市PTA協議会会長賞】

令和6年5~6月に、文部科学省·公益社団法人日本PTA全 国評議会主催で募集をしておりました「楽しい子育て全国キャ ンペーン~家族で話そう! 我が家のルール・家族のきずな・命 の大切さ~三行詩」に、福岡市からは1,437作品もの応募が寄 せられました。残念ながら今回は、入選作品は出ませんでした が、笑いあり、涙あり、また考えさせられる内容もあるなど、力 作ぞろいでした。

推薦させていただきました、小学生の部5作品、中学生の部 5作品、一般の部3作品につきましては、"福岡市PTA協議会推 薦賞"として表彰させていただきます。

たくさんのご応募を誠にありがとうございました。

学校·PTA自慢募集中!

ご自身の学校の自慢やPR何でもOK」 ふようの記事に載せてどんどんアピール お願いします。

たくさんのご応募お待ちしています。











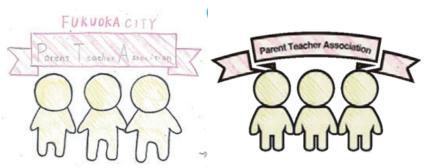




第70回日本PTA九州ブロック研究大会福岡市大会



大会シンボルマーク (福岡市立友泉中学校 上野 栞さん)



ロゴマーク (福岡市立三宅中学校 佐藤 柚奈さん)

令和6年度 PTA活動活性化推進事業

(2)

第147号

第147号

草ヶ江小学校PTA

実施日 令和6年11月16日(土)

事業名 草ヶ江小学校友愛セール

学校の体育館を使用して、友愛セールを実施しました。ゲームコー ナーやバザーなど、たくさんの保護者や教員のみなさまの協力を得 て準備・実施することができました。当日は、800名をこえる児童が参加し、 ゲームコーナーは大盛況でした。多くの保護者を配置し、またベルトパーテー ションを効果的に利用するなど、安全面にはずいぶん神経を使いましたが、大 きなけがもなく、子どもたちとともに楽しいひと時を過ごすことができました。





次郎丸中学校PTA

実施田 令和6年11月9日(土)

事業名 子どもたちの安全を守ろう!! スケアード・ストレイト体験

自転車での移動の機会が多い子どもたちに、いつ遭遇してもおか しくない様々な事故の場面について、スタントマンの実演を交えた 指導並びに体験学習を行いました。

子どもたちは、目の前で「時速40kmの自動車と衝突した自転車の様子」や 「内輪差による巻き込み事故の様子」などを目の当たりにすることで、自分が 被害者にも加害者にもなりうることや事故の怖さをより実感を伴って理解する ことができたようです。





令和7年1月18日(土)にアミカスにて、木山裕策氏による講演とミニコンサートが行われました。子どもにも人気の音楽バラエティーに出演さ れていることもあり、親子で参加している方が多く見られました。

福岡市PTA協議会新聞

講演では、ご自身の経験から子育てをする上で大切にしていることをお話しされました。

木山氏は会社員として働いていた36歳の時に甲状腺がんが発覚し手術をすることになり、医師から「手術すると全く声を出すことができな くなるかもしれない」と告げられます。それまでは自分の考えで行動するよりも、他人から提案されたことをきっかけに行動することが多かった ため、これからどう生きていくかをすぐに考えられなかったそうです。

手術は無事成功し、声を失うことなく元の生活に戻ることができた木山氏は、今まで自分で考えて行動を起こしてこなかったことを反省する とともに、子どもの頃から心の底に秘めてきた夢である歌手を目指そうと動き始めます。30代後半、家庭をもっている状態での挑戦に、周りか らいろいろな意見を言われましたが、無事に歌手デビューを果たします。その時に改めて、自分を助け、支えてくれる人がいることのありがたみ にも気づいたそうです。

この経験から木山氏は子育てをする上で、親の立場として子どもにできることは何か?と改めて考えるようになり"どんな状況になっても、自 分で「考える」ことが最強の武器になる" "親はいつまでも子どもを守り続けることが難しい、困った時には周りの人にSOSを出せることが大切" と気づき、それができる環境づくりに努めたそうです。そのために木山氏が意識してきた7つのことをご紹介します。

- ①心身ともに逞しい子どもを育てる
- ②心を育て、強く生きていける人に育てる
- ③夫婦で協力してワークライフバランスを整える
- ④夫婦で話し合う時間を少しでも持ち続ける
- ⑤家族全員で話し合う時間を大切にする
- ⑥自分の気持ちを伝え、相手の気持ちも理解できるようになる
- ⑦家族の絆をきっかけに、いろんな人との絆を深める

この信念をもとに子育てをしてきた結果、木山氏の4人のお子さんは 自分のしたいことをきちんと言葉にし、それに向かって頑張れるように なったそうです。

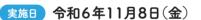
講演の後は、福岡第一高校吹奏楽部の演奏でミニコンサートが行わ れました。「手紙」「YELL」「home」の3曲を歌唱され、吹奏楽の迫力あ る演奏と木山氏の心地よい歌声に参加者は魅了されていました。

とても勉強になる講演会と素晴らしいコンサートは拍手喝采の中、幕 を閉じました。





原中央中学校PTA



事業名 文化交流基金事業

文化交流を通して、子どもたちの豊かな心を育むとともに、創造性 や多様性を高める効果を期待して、「アドヴァンスド・ミュージック・

ギャラリー」の皆さんを招いて『絵や映像が見えるような音楽』を信条とした ビッグバンドの演奏を鑑賞しました。

生の演奏に触れる機会が少ない生徒や音楽の好みが異なる生徒にとって も、新しい音の世界に触れる良い機会となりました。



南福岡特別支援学校PT*F*



学校に古くから関りが深い、町内会・保育所・福祉事業所とともに実施し ました。全校児童生徒の他、福祉作業所、九州大学の現役大学生や、防災 士で構成するボランティア団体にもサポートスタッフとして参加していただき

ました。保育園児の演舞や福祉作業所の出店の他、ゲームコーナーでは災害時に役立 つグッズを用いた魚釣りゲームや避難所等で使用するピクトグラムクイズを実施し、 ゲームを楽しみながら防災を身近に感じる事の出来る良い機会となりました。

また、今回「みかさの会」ロゴ入りグッズ(サコッシュ)を作成・配布しましたが、学校 や地域の中で「みかさの会」のロゴを見かける機会が増え、普段の生活の中で防災に 対する意識を高めるきっかけになればと思います。



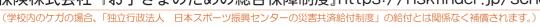


福岡市PTA協議会 小・中学生総合保障制度のお知らせ 安心してお子さまをご養育いただくために

お子さまの「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などを補償します。

この制度の詳しい内容はこちらからも確認いただけます。

AIG損害保険株式会社『お子さまのための総合保障制度』https://riskfinder.jp/school/



※保障制度の詳細につきましては、取扱代理店にお問い合わせください。

●制度に関するお問合せ先:取扱代理店 株式会社コーリン(福岡市PTA協議会保障制度事務局) TEL:0120-228-553(通話料無料)(受付時間:平日午前9時~午後5時 土・日・祝日、年末年始を除く)

●制度引受保険会社:A | G損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 Chubb損害保険株式会社

[令和7年度版:90-009(2026-01)

「また会いたくなる いいヤツ」 福岡市立吉塚中学校 校長 福原 啓二

超高齢化社会によって生じる働き手不足などの問題「2025年問題」。その解決にスキマバイトアプリや後継者を募集している企業と希望している人をつなぐマッ チングプラットフォームがテレビで紹介されていた。事業者が抱える「課題」「困り感」と「自分のペースで」「やってみたい」という個人の意欲とを「つなげる」アイディ アが素晴らしいと感じた。このようないいつながりが生まれるときは、双方向の「好感触」から始まることが多そうだ。

2、3月に入ると、学校では、3年生の卒業、職員の離任など少し寂しい気持ちにもなる。以前、勤務していた学校の校長先生が「出会いは誰でも 大事にするけど、ボク(この校長先生らしい親しみをもてる自称)は、別れを大切にしたいと思っている」と話してくれたことを自分自身も大切に している。

生徒に「先生、卒業アルバムにメッセージを書いてください | と言われた時に、よく書く一つの言葉「いいヤツになれ」。なんとも軽薄な感じだ が、「いい人」ではなく周りから親しみをもたれる「いいヤツ」。周りから可愛がってもらえるような、また、人を応援できるような人になって欲しい と思っている。節目を迎える時に、周囲に対する感謝をもち、また会いたくなる、またいっしょに働きたくなる「いいヤツ」でともにありたい。

